

# 多摩地区は新撰組ファンのパラダイス!!!

## 誠 SHINSENGUMI 徳川幕府のために最期まで戦った新撰組 そのルーツを探る!!!!



### 多摩地区における徳川幕府への忠誠心は家康の頃から続いていた

たびたび映画や小説・漫画などの題材となる「新撰組」は老若男女を問わず実に幅広いファン層に人気がある。局長の近藤勇を筆頭に、クールで二枚目の土方歳三、美男子の剣豪でありながら病を患

っていた沖田総司、その他、井上源三郎や斉藤一などなど揃いすぎているほど揃った役者達。加えて果敢に戦いつつも悲劇に散っていったというそのストーリー。これだけの条件が揃えばファンが多いのも当然と言えよう。

その新撰組の主要メンバー、近藤や土方、沖田などが生まれたのが「多摩地区」で

ある。実はこの地区出身の彼らが、崩壊した幕府に殉じていったのは単なる偶然ではない。多摩地区に東西に走る甲州街道は江戸から甲府へと続いているわけだが、

甲府といえば「武田信玄」。家康はかつて信玄と戦った際、大敗して糞まで漏らして逃げ帰るといふ失態をおかした事があった。この経験から武田軍の強さを身に染みて知っていた家康は、後に江戸に幕府を開いた際、既に滅んでいた武田家の遺臣達を多く雇い入れ、甲州口の警備の任務に就かせたのだ。それがいわゆる「千人同心」である。彼らには江戸と甲府の中間にあたる「八王子」に広大な土地が与えられ、徳川將軍家直参の武士として禄を受ける身分となった。そして大事に備えて日々、武芸に励んだのであった。

このように徳川家の庇護を受けていた彼らには徳川恩顧の気持ちが高く、徳川に何かがあれば自分たちが立ち上がるという強い思いがあったのだ。そしてこの気質は八王子のみならず近隣の多摩地方まで広がっていった。

つまり「尊王攘夷」だ「倒幕」だと叫ばれた幕末においてもなお近藤、土方らが、佐幕派として上京し、更に幕府瓦解しても最期まで徳川に忠誠を尽くした背景には、この故郷に広がる気質が強く影響していたというわけだ。実際に新撰組隊士の中には千人同心の出身者も多く、井上源三郎などもその一人である。

### 様々な息吹を感じさせる遺品群 中でも必見は「土方歳三資料館」

そんな多摩地区は現在、まさに新撰組ファンにとってのパラダイスである。様々なイベントや史跡、資料館が点在しており、

とても一度では回りきれない程、新撰組で溢れているのだ。

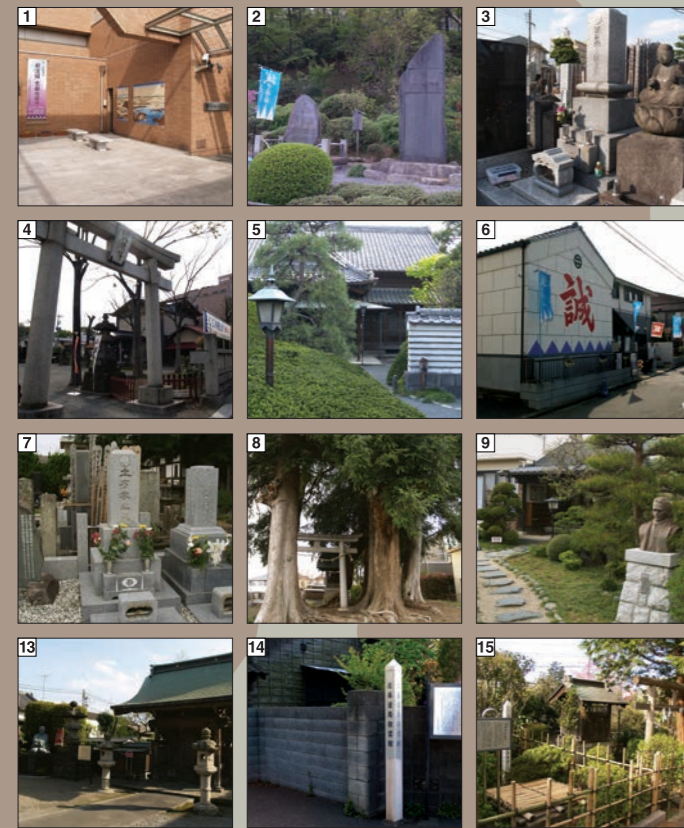
まず調布界限には近藤勇関連の史跡が数多く残る。調布は近藤の生誕地であり、その生家跡や板橋で斬首の後に埋葬された墓もある。また「近藤勇生誕祭」などのイベントなども行われており、近藤ファンはまず調布を訪れると良いだろう。

続いて日野。この界限は土方歳三と井上源三の生誕地であり、また天然理心流の佐藤道場もあったので実に多くの史跡が残る。佐藤道場とは日野の名主として日野本陣を管理していた佐藤彦五郎が近藤達の出稽古用に建てた道場である。彦五郎はその他にも金銭面など新撰組を大きく支援していた。ちなみに彦五郎の奥さんは土方歳三の姉のノブであり、土方とは義理の兄弟にあたる。

数多くある日野の史跡の中でも注目目は井上源三と土方歳三の資料館。それぞれ子孫の方が館長を務め、両家ともその生家の地に資料館を開いているのだ。生家の地でそれぞれの遺品を拝見する。この、まるでとれたての名産品をその場で食すような贅沢感は格別である。特に「土方歳三資料館」は必見中の必見。愛刀や鉢金はもちろん、何と土方が池田屋事件の際に身につけていた鎖帷子まで展示されているのだ。新撰組ファンならずとも幕末好きは一度は見ておきたい逸品である。ちなみに、これらの資料館はどちらとも子孫の方が個人で自宅の一部を開放して開かれているので、訪ねる際は開館日時をよく調べてから行くことをお勧めする。

また近藤勇が斬首された板橋にも供養塔などの史跡があるのでこちらも併せて回って見るのもいいだろう。

### 【多摩地区の新撰組スポット】



1【新撰組のふるさと歴史館】日野市立の新撰組歴史館。 2【宝泉寺】井上源三郎の墓がある。 3【大昌寺】佐藤彦五郎と妻のノブ(土方歳三の実姉)の墓がある。 4【八坂神社】天然理心流の門人達がここで団体稽古をしたという。奉納額(非公開)も保管されており近藤、沖田らの名も見られる。 5【日野宿本陣】佐藤彦五郎が建てた本陣兼邸宅。この敷地内に近藤や沖田、土方の天然理心流の道場があった。 6【井上源三郎資料館】井上源三郎の生家の土蔵の一部を改築し、貴重な資料を展示している。 7【石田寺】土方の墓がある。 8【どうかん森】土方の生家はもともとこの辺りにあったが、土方が12歳の頃に洪水があり現在の場所に移った。 9~11【土方歳三資料館】土方の生家の地にあり、愛刀など貴重な資料を見ることが出来る。庭には土方が植えた矢竹が今も育っている。 12【高幡不動尊】土方の立像や近藤と土方を称えた碑がある。 13【西光寺】幕府崩壊後、甲府へ向かった近藤らが休息した寺。門前には近藤の座像がある。 14【近藤道場撥雲館跡】近藤の娘婿の勇五郎が近藤家を継ぎ、天然理心流を継承して建てた道場。何度か移築されながら現在に至る。 15【近藤勇生家跡】近藤勇産湯の井戸が残る。 16【龍源寺】調布にある龍源寺には近藤勇の墓と胸像がある。 17【壽徳寺】板橋の近藤勇菩提寺。 18【新撰組隊士供養塔】板橋の駅前にある供養塔(現在修繕中)。ここは17番の壽徳院の境外墓地で近藤勇や永倉新八の墓碑がある。近藤が斬首されたのはこの場所のすぐ近くであった。



19【近藤勇 生家古写真】近藤勇の生家「宮川家」の古写真。15番の生家跡に建てたものである。 20【土方歳三 生家古写真】9番の土方歳三生家の改築前の古写真。大黒柱などが現在の資料館の梁などに生かされている。(写真:土方歳三資料館蔵)